

保険検査マニュアル実践講座〈損害保険コース〉

損害保険事業総合研究所

本講座は保険検査マニュアルに完全準拠し、まずマニュアル自体の位置づけおよび内容を解説したうえで、日常業務に伴うコンプライアンスの実践、法的な諸問題への対応等について指針を示します。また、基本的なリスクの内容とそのコントロールの仕組みを説明します。

なお、本講座のテキストは、金融庁の「保険会社に係る検査マニュアル」の策定に参加され、保険業法およびコンプライアンスにご造詣の深い中央大学法科大学院教授 野村修也先生と、新日本有限責任監査法人、あずさ監査法人の監修をいただいております。

1. 受講期間（毎月開講いたします。）

受講期間は3ヵ月とします。

※原則として毎月15日までのお申込受付分について翌月15日に開講いたします。

2. テキストの構成（テキストの主要内容については、後掲をご参照下さい。）

第1分冊『損害保険会社の経営と監督上の枠組み』

第2分冊『コンプライアンスの確立と業務の適切性の確保』

第3分冊『リスク管理と業務運営』

3. 研修方法とスケジュール

（1）テキストおよび添削課題の送付

指定された宛先（研修担当者または受講者本人）へ送付します。

（2）添削課題の提出

所定の締切日までに「株式会社 きんざい」宛にご提出下さい。

なお、会社によっては、研修窓口で添削課題を一括してとりまとめる場合があります。提出先については、貴社研修担当窓口でご確認下さい。

（3）添削課題の採点および返却

提出された添削課題は添削・採点のうえ、提出から約40日後に模範解答を添えて返却します。

（裏面に続く）

《スケジュール例（課題返却・成績報告の日付は目安です）》

4月開講コースの場合

	第1分冊	第2分冊	第3分冊
テキスト・課題送付	4 / 15	5 / 15	6 / 15
課題提出締切日	5 / 15	6 / 15	7 / 15
添削済課題返却	6 / 20	7 / 20	8 / 20
成績報告	6 / 20	7 / 20	8 / 20

（修了証発送8月末予定）

※5月開講以降の配本スケジュールも上記に準じて設定されます。

（テキスト等の発送、課題の添削・返却、受講料の請求などは当研究所が事務を委託した「株式会社きんざい」が行います。）

4. 修了者および優秀者の認定

修了資格を取得した方には通信講座の修了証を授与します。修了資格は全3回の添削課題すべてを提出期限内に提出し、かつ各回とも60点以上の評点を取得することが必要です。また、各回とも90点以上の評点を得た方を優秀者と認定いたします。

5. 受講料・テキスト代

1名につき15,017円（税込）

6. 受講申込み方法

- (1) 損害保険会社の社員の方
別紙「受講申込書（一括用）」に所要事項を記入のうえ、当研究所宛にお申込み下さい。
受講開始後、事務委託先の株式会社 きんざいより、会社宛に受講料を一括ご請求いたします。
- (2) 上記以外の方（損害保険代理店等）
別紙「受講申込書（個人用）」に所要事項を記入し、郵便局から受講料を払い込み、郵便振替払込票兼受領証のコピーを貼付のうえ、FAXで当研究所宛お申し込みください。

7. 申込締切日

貴社研修担当部署から指定された社内締切日までにお申込み下さい。

※ご参考 当研究所の締切日は、ご希望開講月の前月15日です。

【テキストの主要内容のご案内】

第1分冊 損害保険会社の経営と監督上の枠組み

ーガバナンス、内部統制、内部監査、当局検査・監督ー

- ・第1章 企業活動と内部統制
- ・第2章 損害保険会社に対する規制
- ・第3章 損害保険会社の経営管理（ガバナンス）
- ・第4章 損害保険会社の財務の健全性
- ・第5章 損害保険会社の業務の適切性
- ・第6章 損害保険会社のディスクロージャー
- ・第7章 損害保険会社の内部統制
- ・第8章 内部監査と外部監査

第2分冊 コンプライアンスの確立と業務の適切性の確保

- ・第1章 コンプライアンスの意義
- ・第2章 コンプライアンスの確立
- ・第3章 コンプライアンスの徹底等
- ・第4章 業務範囲規制等（損害保険会社固有のコンプライアンス事項）
- ・第5章 保険会社の業務の濫用防止等
- ・第6章 保険募集管理態勢
- ・第7章 損害保険の募集
- ・第8章 「保険契約管理態勢」と「保険金等支払管理態勢」
- ・第9章 団体契約／団体扱契約・集団扱契約
- ・第10章 顧客情報管理態勢
- ・第11章 外部委託管理態勢
- ・第12章 顧客サポート等管理態勢

第3分冊 リスク管理と業務運営

- ・第1章 統合的リスク管理の理解
- ・第2章 保険引受リスクの理解
- ・第3章 資産運用リスクの理解
- ・第4章 オペレーショナル・リスク等の理解

※内容・項目につきましては、部分的に変更になる場合があります。